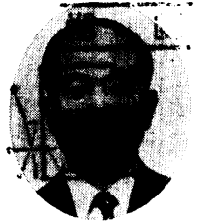


巻頭言



情報処理学会活動について

木村 豊†



情報処理学会が誕生してから 19 年、来年は 20 周年を迎えるが、この時点の一つのしめくくりとして、20 周年記念事業を催し、会員の皆様とともに、本学会が一層発展するためのスプリングボードとするよう各種の計画が進められている。小生、当学会の理事（総務担当）を一年間体験させていただき、これまで、あまりにも学会活動状況に関心なさすぎていたことを反省し、小生のような会員の方が少しでも少なくなり、学会活動についてより深い理解をいただくことを願って本紙面を使わせていただくこととする。

当学会の活動意義が、非常に明解にかつ簡潔にまとめられているのが、北川前会長の第 17 回全国大会での会長あいさつである。（Vol. 18, No. 2 に掲載）、これにならって現状にふれてみたい。

会員の規模；会員数は 3 月末で 12,500 人と増加し喜ばしいことであるが、事務局から連絡できない方が 1 割以上含まれている。この対応策を考える必要に迫られているが、会員の皆様の御協力を得て少しでも多くの方々と連絡できるようにしたいものである。

機関誌；Vol. 20, No. 1 に発表のとおり「情報処理」「論文誌」「欧文誌」が揃っている。広く御利用いただきたい。とくに「論文誌」については、会員皆様の発表の機会を増加すべく新たに企画されたものであり、未だ周知がゆきとどいていないので、会員の皆様が口こみで周知し合って下さることを期待している。

研究会、研究委員会；学会発足当初、情報処理月例会、各種の同好会、WG として各種の最先端のテーマについて研究がなされ、これら諸先輩の努力が実って昭和 48 年から正規の研究会が発足した。昭和 53 年度では（1）医療情報処理、（2）計算言語、（3）コンピュータネットワーク、（4）イメージプロセッシング、（5）DB 管理システム、（6）人工知能・対話技法、（7）記号処理、（8）ソフトウェア工学、（9）マイクロコンピュータ、（10）計算機アーキテクチャ、（11）計算機シ

ステムの解析と制御、更に（i）教育調査、（ii）DB 理論、（iii）電子装置設計があり、最先端の課題に対して最先端の方々が非常に有意義な研究活動をされている。何れの課題も情報処理分野において、どうしても克服していかなければ、次の技術の飛躍につながっていけない、いわばクリティカルパスであり、会員の皆様にとって最も魅力ある活動分野と考えられる。大いに参加していただき奥深い活動をしていただくとともに成果を早く、広く周知し、会員の皆様の技術動向に関する全体としての方向感覚の成生に役立てていただきたい。

国際活動；日米コンピュータ会議も第 3 回を終了し、第 4 回の企画の時期が迫っている。また情報処理国際連合（IFIP）の関連では、各 TC, WG が行われ、来年の IFIP 日本大会の準備が進行している。

以上述べたように、会員の皆様には、年一回の大会への論文発表のみでなく、数多くの活躍の場が用意されている。「情報処理」という言葉も、会誌のスタート時点に Information Processing を日本語で表現したものと伺っているが、現在ではすっかり定着している。すなわち情報処理学会での活動範囲は広範におよび、現代の社会生活においては欠くべからざるものになってきている。またこの発展も限りなく奥深いもののように、おそらく、これらの技術は人間そのものに近い情報の処理、入出力機能を造り出していくものと考えられる。そしてこれらがネットワークを介して自由に結合し合える（この分野は人間そのものでは不可能であった）ように成長していくものと考えられる。

情報処理学会の活動は、上記将来像に関連の深い技術の発展に対する大役を担っている。共に力を出し合ってより魅力ある学会に育てあげようではありませんか。

（昭和 54 年 4 月 14 日）

† 本会理事 日本電信電話公社